罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 22（2010）年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 25（2013）年 9 月 27 日現在

罹患年月日の決め方

① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする

② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

① ICD-O-3 分類の性状 2（上皮内），3（悪性、浸潤性）で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-O-3 分類の性状 1（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない○○腫瘍）で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

精度指標

DCN：14.8%

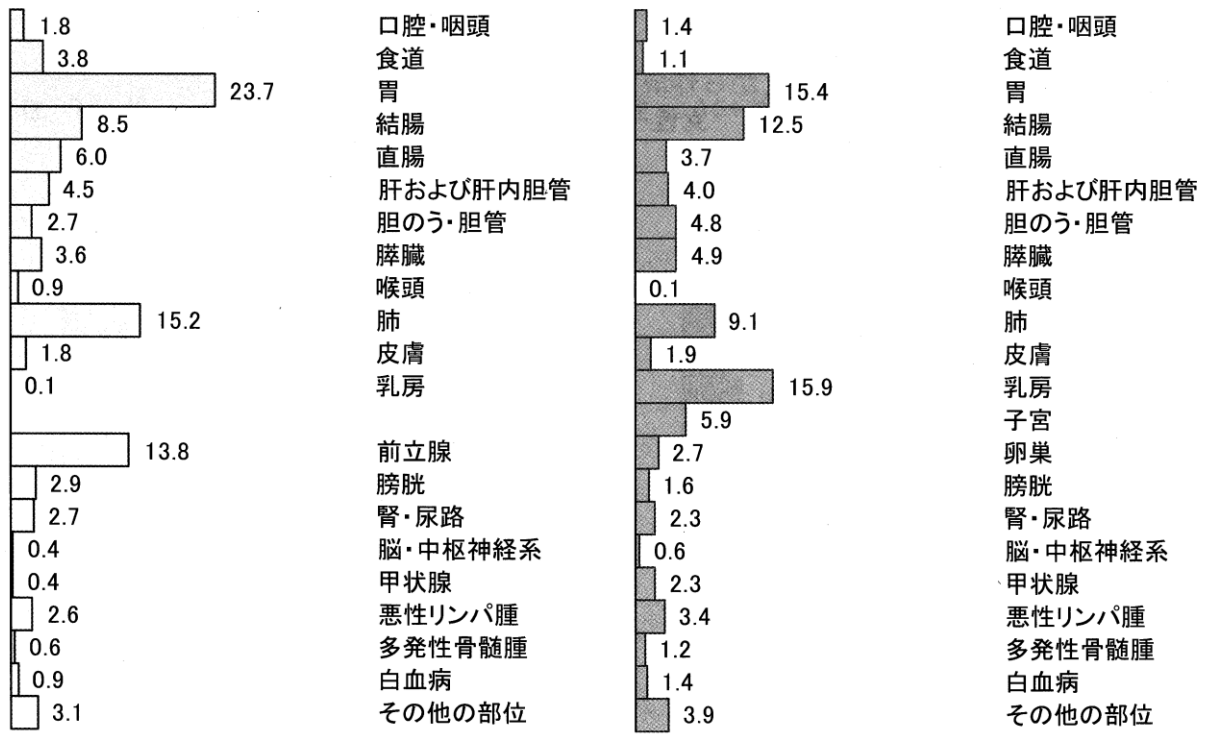
国際 DCO：4.8%

I/M：2.29

■ 罹患の概要

2010 年に山形県において、男性延べ 5,249 件、女性延べ 3,705 件の、合計延べ 8,954 件 のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、肝臓と続く。女性で最も多いがんも乳がんであり、胃、結腸、肺と続く（図 1）。

図 1 部位内訳（%） （表 1-A から作成）



年齢別に見たがんの罹患

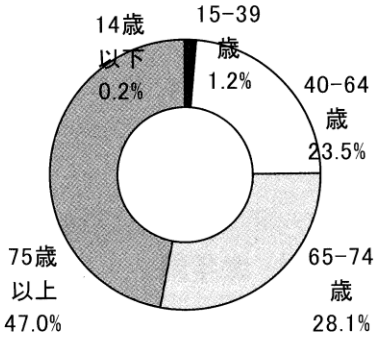
年齢別にみると、2010 年に新たに診断されたがんについて、約半数が 75 歳未満であった。女性の 40-64 歳の年齢層は、昨年と比べて約 3%増加している。15 歳未満の罹患、いわゆる小児がんは、14 例であった（図 2）。

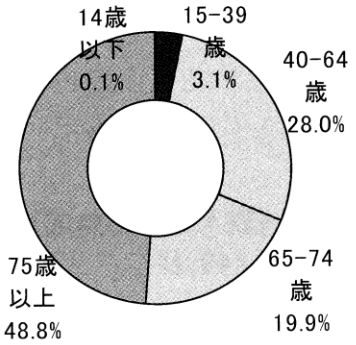
40-64 歳で罹患数の多い部位は、男性では胃、肺、結腸で、女性では乳房、子宮、胃であった。女性の 15-39 歳では、昨年と比べて乳がんの割合が 10.0%増加し、子宮がんを抜いて最も罹患の多い部位となった（図 3）。

ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。2010 年は、75 歳以上の男性の直腸がんの高い罹患率が目立つ。女性の乳がんについては、45－49 歳の年齢層に罹患のピークがみられ、60 歳台のピークが不明瞭だった。子宮頸部について、30－34 歳の年齢層に罹患のピークが見られ、罹患率も増加している。前立腺がんは、70 歳以上の男性の 200 人に 1 人が患っている。

図 2　年齢別内訳（%）　（表 2-A から作成）

	男性
14歳以下	9
15-39歳	64
40-64歳	1,233
65-74歳	1,477
75歳以上	2,466
合計	5,249

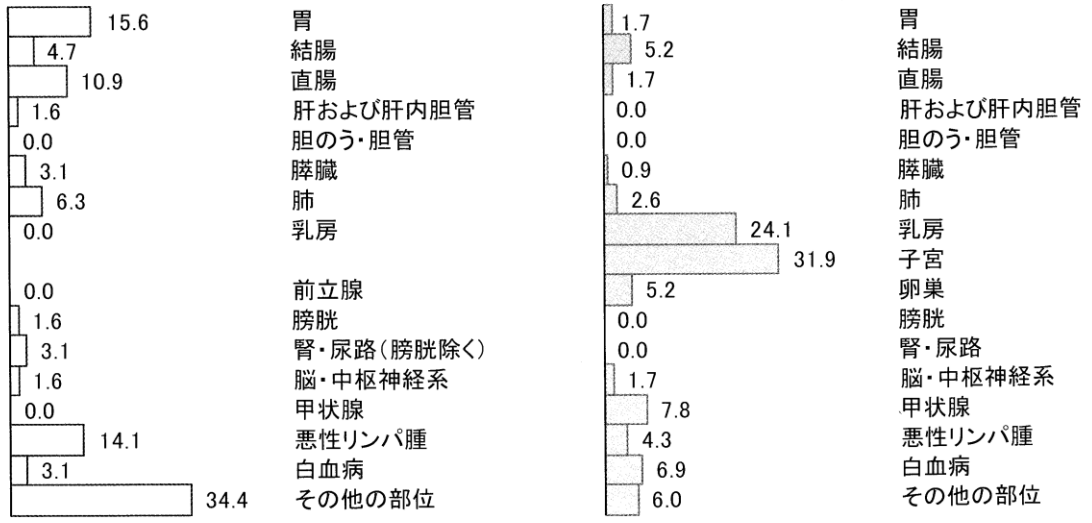




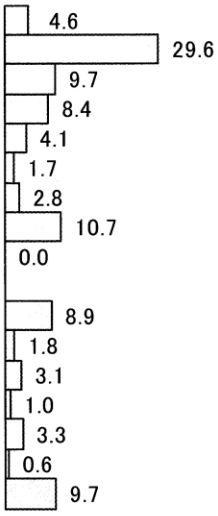
女性	
5	14歳以下
116	15-39歳
1,039	40-64歳
738	65-74歳
1,807	75歳以上
3,705	合計

図 3　年齢別部位内訳（%）　（表 2-A から作成）

男性　15-39歳　　64 件　　女性　15-39歳　　116 件

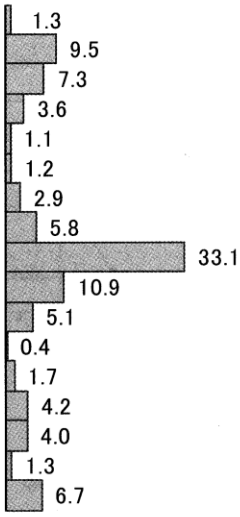


男性　40-64歳　　1,233 件



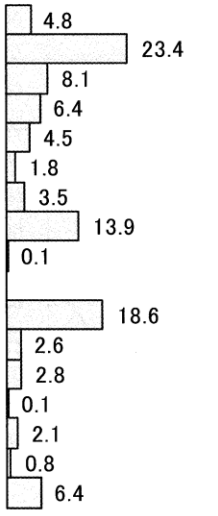
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性　40-64歳　　1,039 件



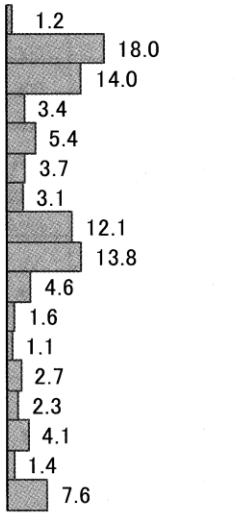
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性　65-74歳　　1,477 件



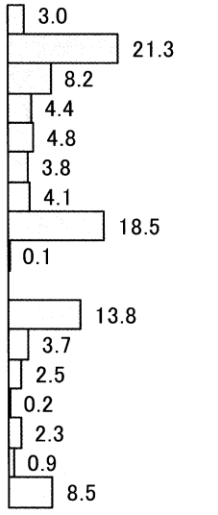
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性　65-74歳　　738 件



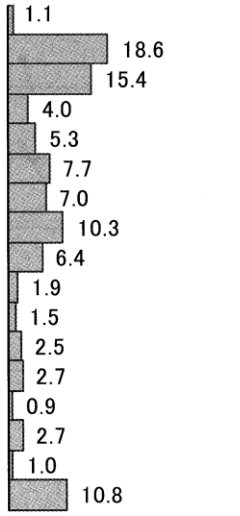
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性　75+歳　　2,466 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

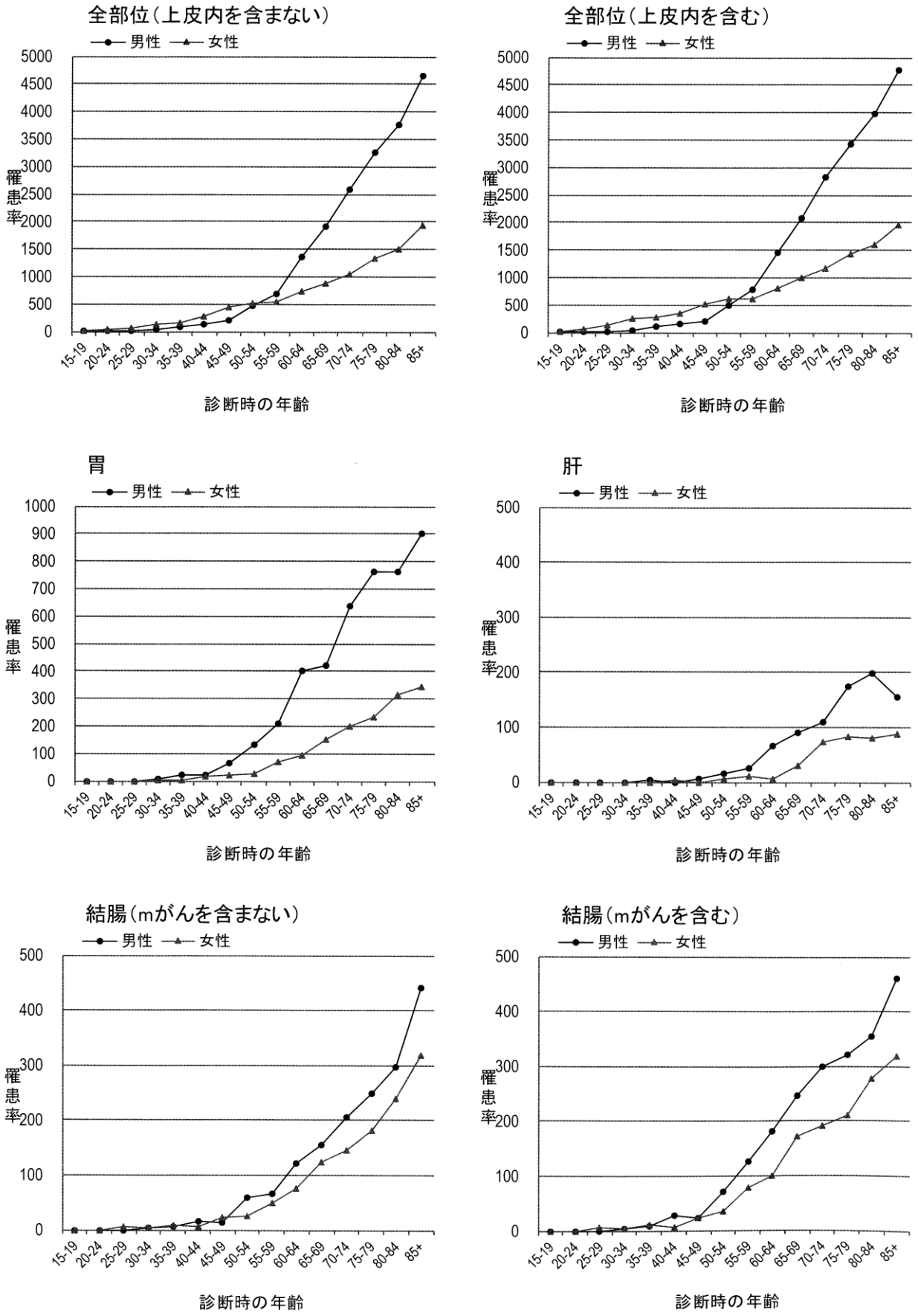
女性　75+歳　　1,807 件



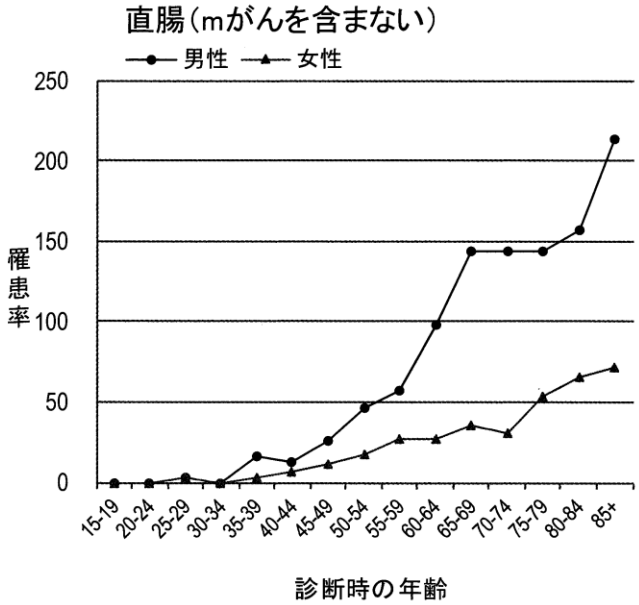
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

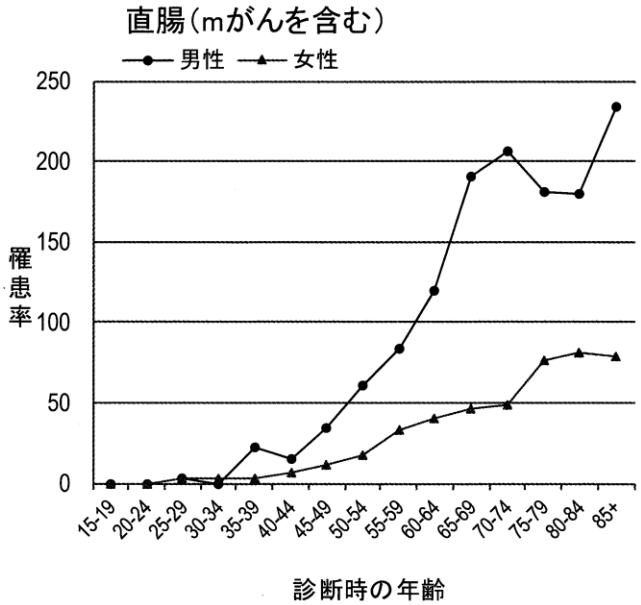
図 4　部位別年齢階級別罹患率：人口 10 万対　（表 3-A、B から作成）

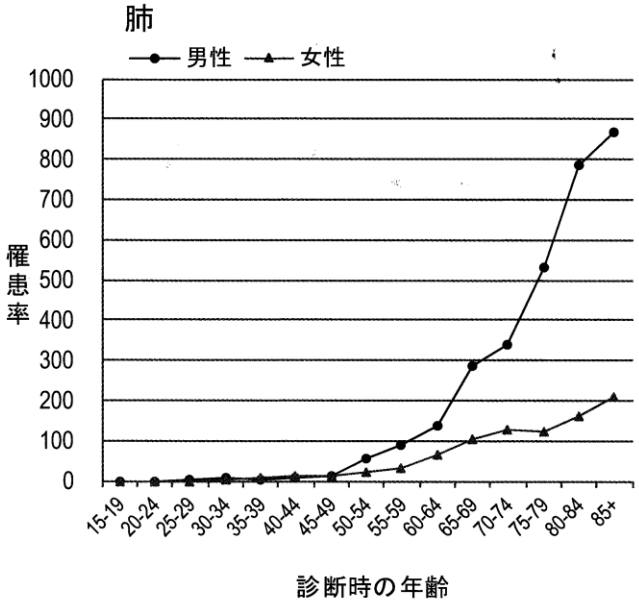
図　　年齢階級別罹患率

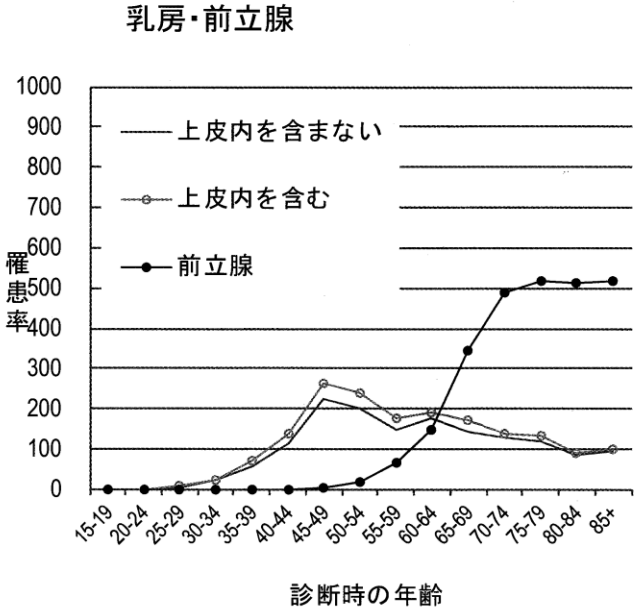


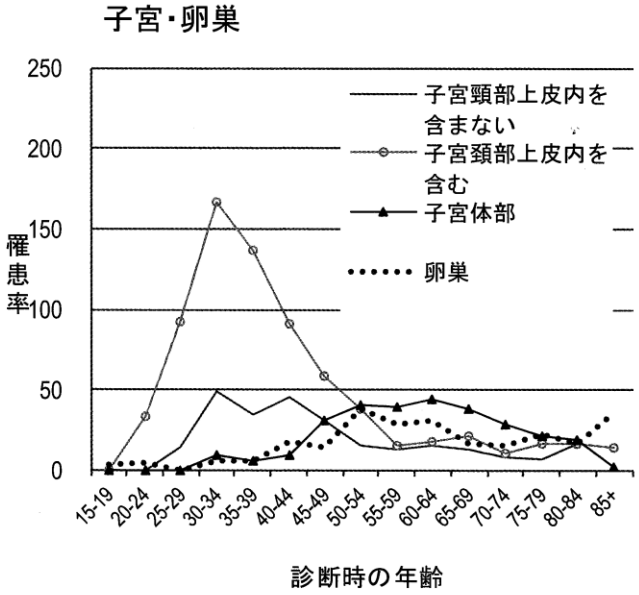
注）　m がんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（m がん）は上皮内がんとして扱う。


直腸（mがんを含まない）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


直腸（mがんを含む）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


肺
男性
女性
罹患率
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

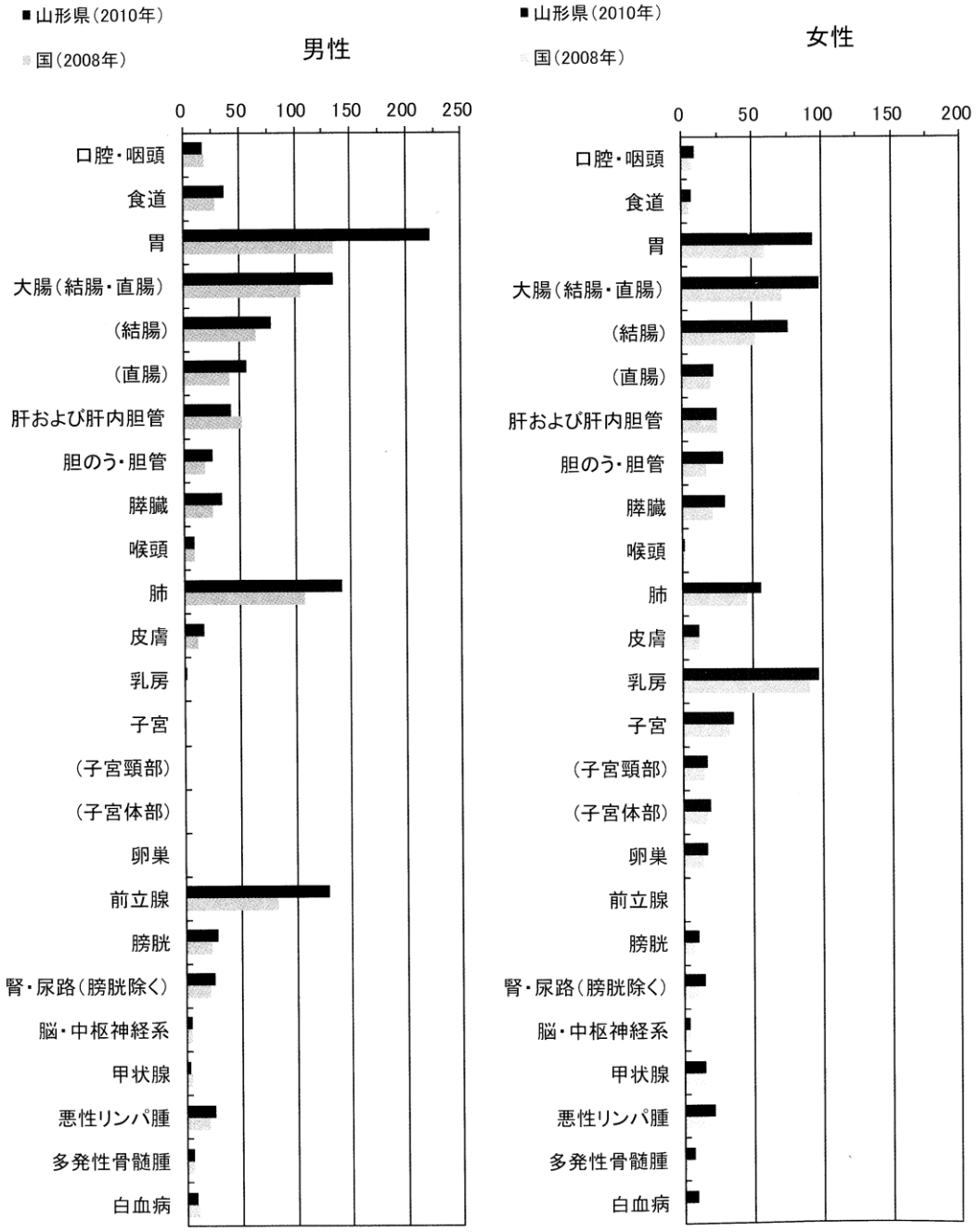

乳房・前立腺
上皮内を含まない
上皮内を含む
前立腺
罹患率
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


子宮・卵巣
子宮頸部上皮内を含まない
子宮頸部上皮内を含む
子宮体部
卵巣
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

山形県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較して、ほぼすべての部位において、本県の罹患率が高かった。特に、男女ともに本県の胃がんの罹患率が明らかに高い。全国と比べて罹患率の明らかに低い部位は男性では肝臓・肝内胆管のみである。女性の乳がん罹患率は、初めて全国値を上回った。昨年と比べて、前立腺がん罹患率の全国値との差が拡大している。

図 5　部位別がん罹患率：人口 10 万対　（表 1-A から作成）

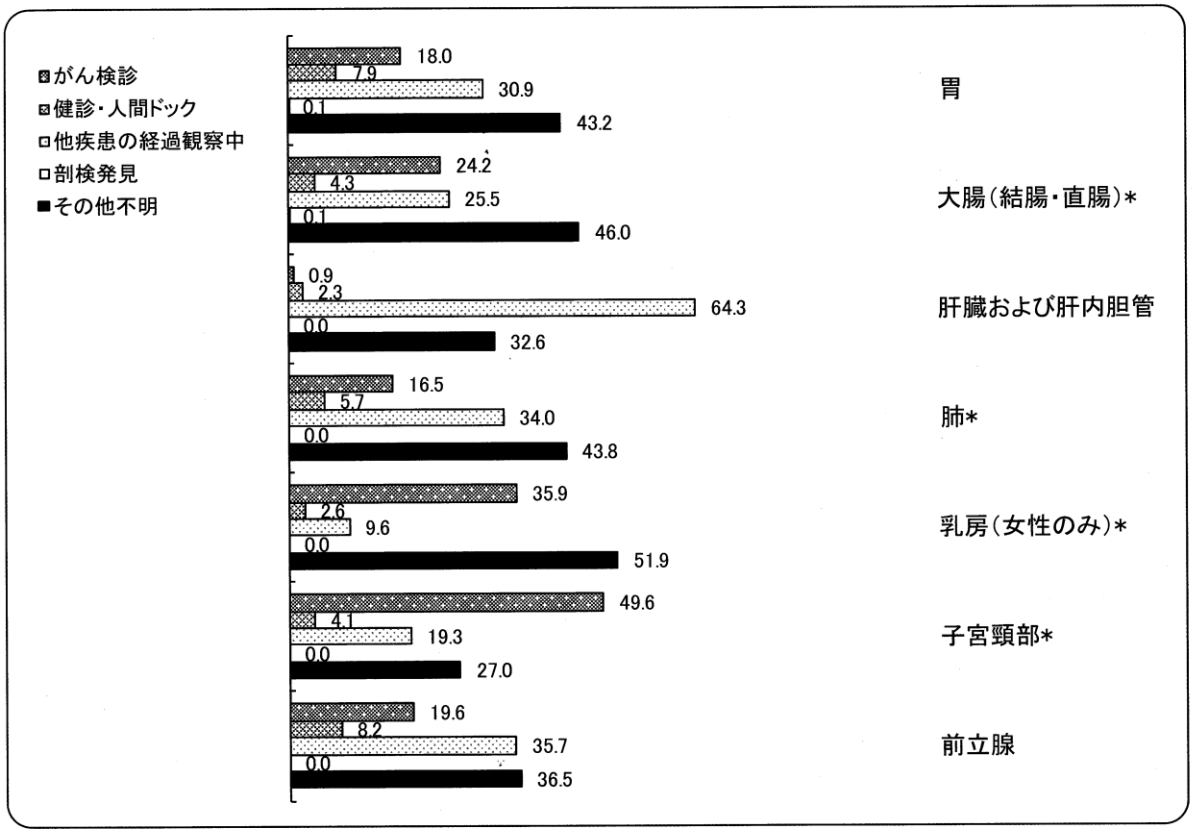


国の値は、がん対策情報センター発行　「全国がん罹患モニタリング集計　2008 年罹患数・率報告」より引用。

発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃　25.9%、大腸　28.5%、肺 22.2%、乳房　38.5%、子宮頸部　53.7%であった。前年に引き続き、乳房と子宮頸部ではがん検診による発見が増加した。これは、平成 21（2009）年度から両部位においてがん検診推進事業が実施され、対象年齢において無料クーポンが配布された結果、本県ではがん検診受診者が増加した影響と考えられる。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。検診実施部位においては、その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

図 6　部位別発見経緯（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 4-A、B から作成）

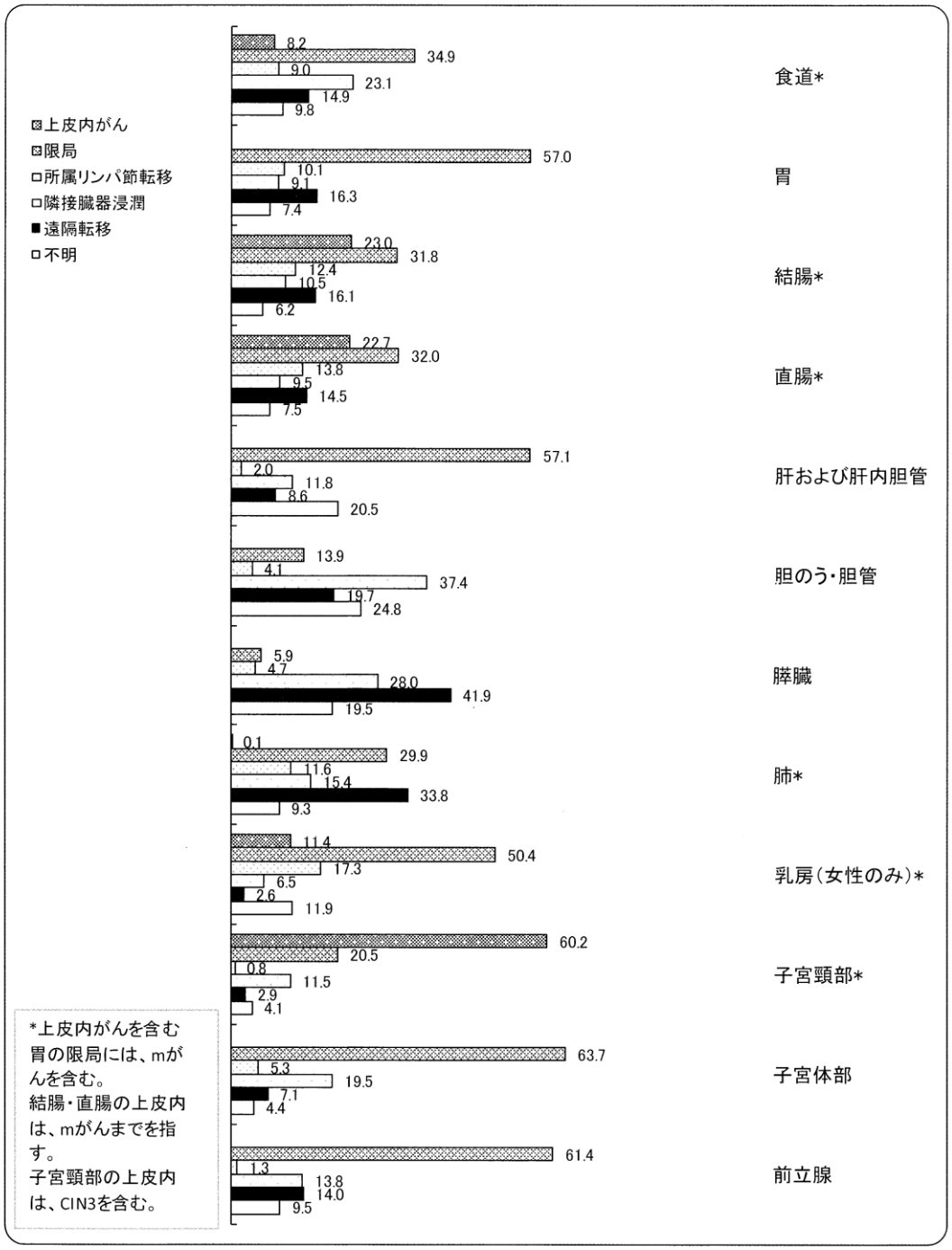


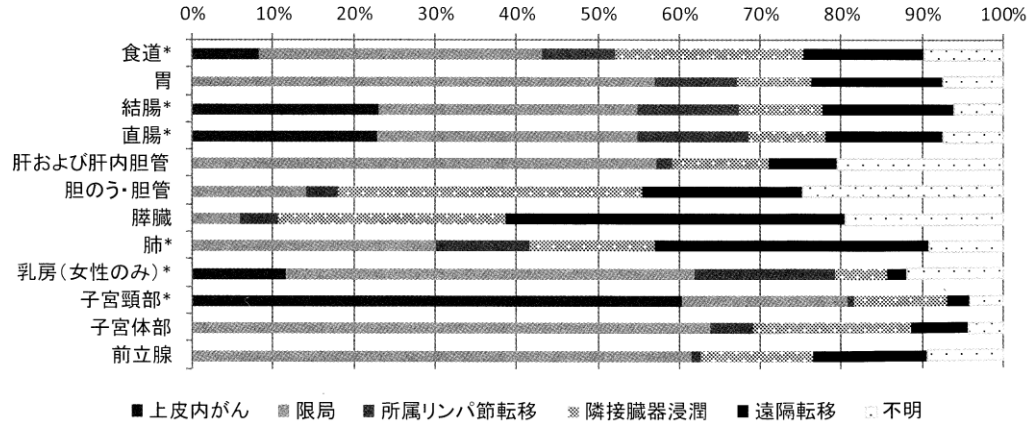
＊　上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が約半数を占めていた。子宮頸部・子宮体部・前立腺の上皮内及び限局がんの割合が、さらに大きくなった。全体的に昨年と比べて遠隔転移の割合が小さくなっているが、大腸については、著変なかった。

図 7　部位別発見時の病期（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 5-A、B から作成）

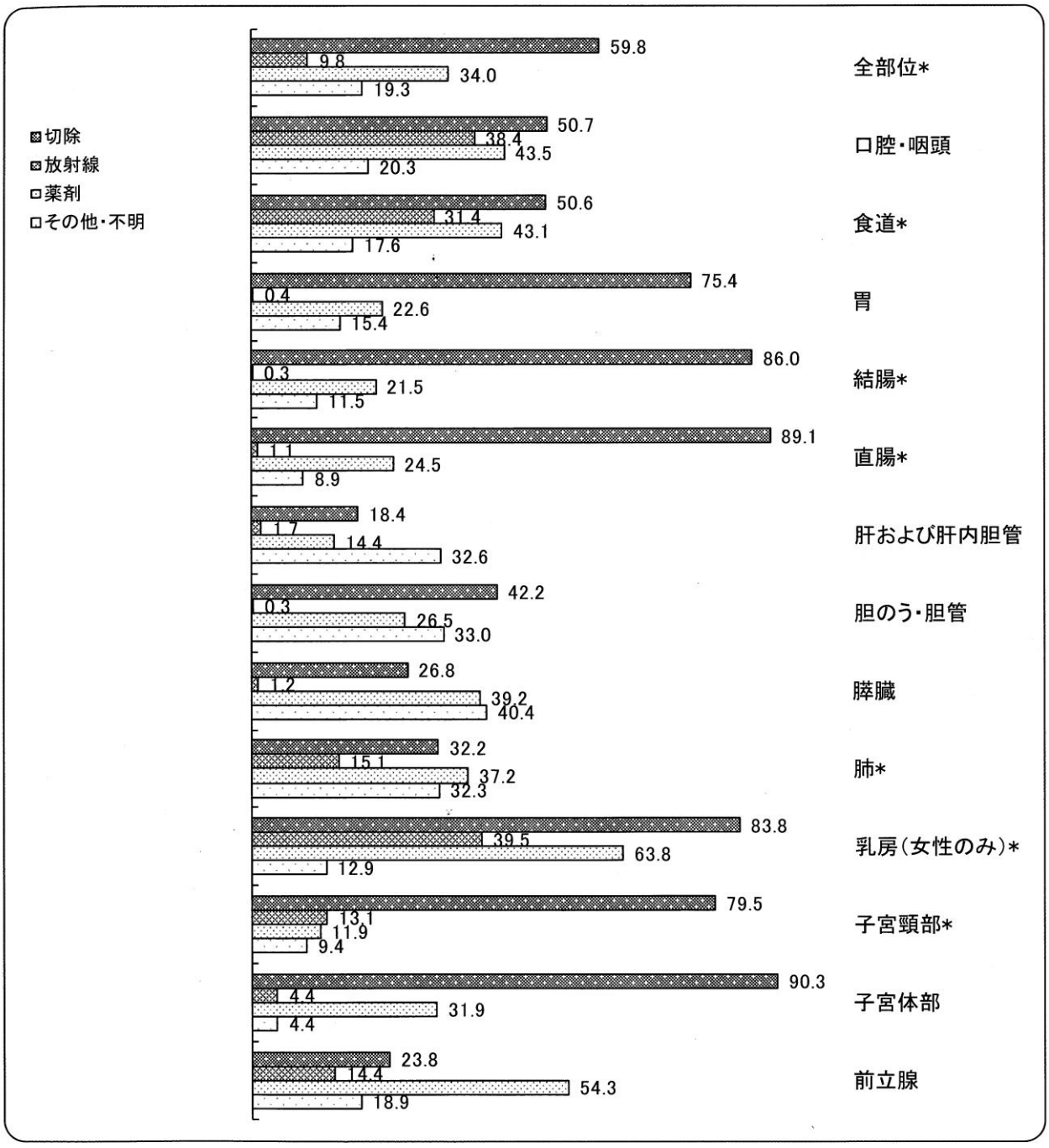




初回治療の方法

昨年と比べて、初回治療の方法の分布に大きく変化は認められなかった。一般的に、胃、大腸などの消化管、胆のう・胆管、子宮、腎・膀胱では、手術などの外科的治療の割合が高い。また、口腔・咽頭、食道、喉頭、乳房では、薬剤や放射線による治療や併用療法も比較的多く行われている。

図 8　初回治療の方法（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 6-A、B から作成）



＊　上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。